

60周年を祝う大輪の花！つつじの郷やいた花火大会

10月13日（土）、12回を数え、すっかり秋の矢板の風物詩となった「つつじの郷やいた花火大会 2018」が道の駅やいた周辺で開催されました。花火大会では、子どもたちがデザインした「ゆめ花火」や市制施行60周年を祝う60連発花火など例年より2,000発多い12,000発が打ち上げられ、会場を訪れた約8万人の観衆の目を楽しませました。また、同日に開催した山車めぐりスタンプラリーでは、約800人の方が、独特の彫刻などが飾られた山車を写真に収めたり、お囃子の体験を楽しんだりしながら、山車のある矢板2・3・4・5・6区、末広町を巡りました。



夜空を彩る「ゆめ花火」



9/26 (水) 自転車で交通安全パレード

9月21日から10日間にわたり行われた「秋の交通安全全市民総ぐるみ運動」の一環で、プロサイクルロードレースチーム「那須ブルーゼン」の選手などが参加した自転車による交通安全パレードが実施されました。パレードの列が川崎小学校前に差し掛かると、待ち構えていた児童たちから大きな声援が送られました。また、パレード前には、円谷プロとタイアップした「ウルトラハイビーム大作戦」のステッカーを配布するなど、夜間運転時の原則ハイビームの使用を呼び掛けました。



▲ステッカーを前に、ウルトラマンのポーズを決める関係者

9/29 (土) 防災力を高めよう

市文化会館で、個人の防災力向上とコミュニティ連携の活性化を目的に、県内で初となる「地域防災力向上シンポジウム」が消防庁・県・県消防協会・市の共催で行われました。基調講演では、元NHK「ニュース7」の気象キャスターで気象予報士の半井小絵さんが「自然災害に対する意識を高めて、防災情報の内容を正しく理解し早目の避難が大切」と、来場者に向けて話されたほか、パネルディスカッションでは、市長・消防団長・区長会長・県防災士会理事長などが登壇し、災害への備えや対応について意見を交わしました。



9/30 (日) 魅力を学び発信しよう

長井にある渡辺りんご園で「栃木県子ども観光大使」のりんご収穫体験が行われました。「栃木県子ども観光大使」とは、子どもたちが本県の魅力を学び県内外に発信する事業で、この日は県内各地から10人以上の小学生が集まりました。子どもたちはりんご狩りをした後、園主の渡辺さんからおいしいりんごの育て方や選び方などの説明をメモを取りながら真剣に聞いていました。真岡市から訪れた姉妹は「初めてりんご狩りをした。思ったより大きく、とてもいい匂いがした」と話してくれました。



10/6 (土) 棚田で秋の味覚を堪能

第二農場兵庫畑で、50人を超える棚田オーナーの皆さんが集まり秋の収穫祭を行いました。予定していた稲刈りは未明まで降り続いた雨のため中止となりましたが、子どもたちに収穫の喜びを感じてもらおうと、水田の一部で稲刈り体験を行いました。その後、前回の活動で収穫したジャガイモが入った豚汁や煮物など、地元のお母さんたちによる手料理が振る舞われると、大自然の中で秋の味覚を堪能した参加者の皆さんからは、笑顔があふれていました。



10/10 (水) 愛される公園を目指して

知事から「みどり公園の愛護」功労者表彰を受けた「矢板市花の会」の方が、市長を表敬訪問しました。花の会が、長峰公園を中心とした花木植栽や除草作業を団体設立以降20年にわたり行っていることから、まちの環境美化に努め、花と緑の絶えない憩いと安らぎのあるまちづくりに貢献したことが認められ、受賞しました。新野会長は「市民に愛される公園にしたいと、会員みなさんと力を合わせて活動してきた。受賞を励みに、今後も公園の環境美化に努めたい」と話してくれました。



▲（右から）
・西川さん
・新野会長
・齋藤市長
・小口さん
・櫻井さん

10/15 (月) 心に響く主張

「少年の主張発表大会」全国大会に県代表として出場する泉中学校3年神立千星さんが市長を表敬訪問しました。この大会は、中学生が日ごろ抱えている思いや考えを、正しく伝え、理解してもらおう力などを身に付けることを目的に行われているものです。神立さんは「車いすでも不自由なく生活できる環境づくりの必要性について主張した。会場にいる一人ひとりの心に自分の思いが届くよう、全体を見渡しながら発表することを心掛けた」と県大会での様子を話してくれました。



▲（右から）
・齋藤市長
・神立さん
・築瀬校長
・村上教育長
◀県大会で発表する神立さん